

## 11月のリフレクションシートから

### 必修科目「イノベティブ・デザイン入門」特集

前半はデザイン概論、後半は『大谷石(おおやいし)の「文化を大切に作る心」と「文化財を護り伝える」ための持続的プログラム』をテーマにワークショップを行いました

デザイン思考とはどういう事なのか身をもって実感した。ブレインストーミングのパワーを感じながら、出来上がったアイデアのプロトタイプ制作(計画)をやれて、デザインは本当に大切なものなんだと分かった。特にトピックの背景を調べることは重要で、中身がなければ宣伝・プレゼンしても意味がなくなってしまうことも理解した。

午後のプロジェクトで、大人数での進行の難しさを実感した。経験上4人以下であればできた、全員から意見を引き出すこと、進行状況を把握するといったことが、たった2人増えただけで難しくなったので、とても驚いた。

また、締め切りまでに考えをまとめることに必死で、あまりプレゼンの内容が練られず、せっかく皆で出し合った意見をあまり出すことなく発表することができなかった。この悔しい経験は、今後自分の考えを素早くまとめ、伝えていく中で、必ず何か役に立つと思う。

まちづくりを考えるときには「こうなったらいいな」という目標と、その地域のプライドを持ってやるのが大切だと感じた。グループワークでも、実現された結果やその企画はどの部分で社会貢献するのかを話し合った。今回のテーマ「大谷石」はとても大きなものだったが、こうして話すことから徐々に実現していくのだと思った。

私は今、自由研究で大谷石と建築について調べている。大谷石が最も昔に使われたのは1500年前の県内の古墳の石棺だが、石というのはもっと昔からあったはずなのに、なぜそれより以前に使われた形跡が残っていないのか疑問に思った。また、新大谷石についての先生のお考えをぜひ聞いてみたい。

これまでアートとデザインの違いをあまり認識していなかったが、「アートは自分の個人の考えや思いをその痕跡として表しているだけ」というのを聞き、ものづくりの目的がアートかデザインかでは全く違う物ができると分かった。大谷石のプロジェクトのグループワークでは、zoomで話し合う難しさを感じた。Zoomでは、ひとりが話している間は別の人に話しかけにくくなるので、工夫が必要だと思った。

### 編集後記

先日の新聞に、ケータイに初めてカメラを付けた人の話がありました。当時、JKのカバンの中には必ずケータイとレンズ付きフィルム(写ルンです)があって、プリクラが流行っていた。そこから、ケータイ後発組だったシャープの開発担当者が着想。それから20年。社会は全く変わってしまいました。フィルムと、フィルムで撮るカメラというものはマニアだけのものになり、世界最大手のフィルム会社コダックは倒産。iPhoneにもカメラは標準装備で、インスタだって「写メ」から始まっていると考えられます。これこそ「イノベーション」ですね。(大)